

日本の梅雨が懐かしい 6月

1学期も中盤にさしかかっています。

6月になり、アブダビはもう、40度を超える日が多くなっています。日本では、6月は梅雨。雨の季節で、毎日雨で、うっとうしく感じている人や、逆に、紫陽花や花々が雨に濡れしっとりとした雰囲気日本らしい情緒に浸っている人等がいることでしょう。

雨のないアブダビにいと、あの雨のにおいが懐かしく感じます。

日本人学校の正門からまっすぐの道の両側には、子どもたちが毎日水やりをして育てている花々や野菜などがあります。

アブダビ日本人学校の子どもたちは、落ち着いた学習態度で授業に臨んでいます。

また、今はラマダン月、エミラテの子どもたちへ色々気を遣いながら生活しています。



ちょっといい話

「ひとのためになる」という気持ち

私が通った大学は、いわゆるミッション系の大学でした。そこでは、毎朝「礼拝」が行われていました。賛美歌を唄い、神父様(大学では神学部の教授が日替わりで)のお説教を聴きます。私は授業時間の合い間を縫ってできるだけ出席していました。ある日の神父様の説教は、今でも心に残っていて、私の人生訓「一期一会」にも関連して教訓となっています。

神父…「私の家では、随分前から、両親がいない幼な子を施設から預かって、自分の子のように育てていました。その子が大きくなって成人したんです。そして、我が家から出て、遠い所へ就職をしていきました。私は、とても喜んでいましたが、妻は『あんなに大事に育てたのに、感謝しているのかしら。遠くへ行ったきり連絡もしない。』と嘆いていました。そこで私はこう言いました。『あのを引き取った時の気持ちを忘れたの？家庭に恵まれなかった幼かったあの子を何とか幸せにしたい、と思って自分の子同然に育てたんだろ。その通りに育てたんだからそれでいいじゃないか。他に何を求めているの？自分の本当の子でも、きっと、育ててくれてありがとうと言ったり、遠くからいつも連絡をよこしたりなんてことはなかなかないよ』 礼拝に集まっている学生諸君、この世の中は、ほとんどが「ギブ・アンド・テイク」の世界です。何かをしてあげたら何か見返りをもらう。これが多いですよ。ただ一つだけ、それが当てはまらないもの、それが『親の愛』です。この世で「ギブ・アンド・ギブ」は親の愛情だけです。愛する子どもに、与えるだけで、見返り(報酬)を求めない。だから親の愛は海よりも深く山よりも高く、と言うのです。」

私は、それまで、親の愛について深く考えたことがありませんでした。子どもだから親に何かしてもらうのが当たり前。親の愛は空気みたいなものでした。しかし、この神父様の言葉を聞いた時、心に衝撃が走りました。親孝行のことだけ考えたのではなく、そんな親の愛に少しでも応えられる人間になりたいと思いました。なおかつ、ギブ・アンド・ギブの範囲をもう少し広げられないものか。「一期一会」の気持ちで人に接しようと思いました。子ども達が親の気持ち、愛を感じながら育ってくれれば、もっといい家庭、地域、社会がつくれることでしょう。

